

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲・乙 第 号	氏名	中村 善文
論文審査担当者	主査 内田 直樹 教授 副査 木内 祐二 教授 副査 小野 賢二郎 教授		
<p>論文題名：成人発達障害専門外来における診断名および自己記入式評価尺度の検討 掲載雑誌名(巻・号・頁・掲載年)：精神医学，第 63 巻，第 10 号，2021 年掲載予定</p> <p>近年、成人期の神経発達障害は注目を集めているが、適切な診断や併存の評価は難しい。昭和大学附属烏山病院では 2008 年度より成人を主な対象とする発達障害専門が開設されて以降、数多くの患者が受診をしており、中村らは初診時の診断名や前医における診断名との一致度を調査した。</p> <p>本研究では、2008 年度から 2016 年度までの発達障害専門外来における診療録を後方視的に調査した。自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如多動症(ADHD)、限局性学習症(SLD)のいずれかの最終診断がついた者は 45%であった。また、発達障害の内訳として ADHD が近年では増加していることが示唆された。</p> <p>Autism Spectrum Quotient(AQ)と Adult ADHD Self-report Scale(ASRS)の特異度は低く、女性は男性より高値を示し、ASD においては AQ と年齢が正相関していた。この結果から、専門外来受診者の半数は神経発達障害以外の診断となり、AQ や ASRS は年齢や性別の影響を受けるため、使用には慎重な解釈が必要であると考えられた。発達障害の診断は半分以下であり、発達障害外来の診断では過剰診断に注意を要すると考えられた。</p> <p>本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p>			

(主査が記載)